

■はじめに

新年、あけましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になり、ありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今回は元旦に目に留まった新聞記事の話題を紹介します。

■奈良に学ぶ

朝日新聞（全国版）の元旦の一面に、グローバル社会を迎え、日本の教育は世界を捉えることができるのか、と課題が提起されていました。アジア最高の英語教育都市を掲げる韓国や、UAE、オーストラリアの施策も紹介されていました。一年間をかけて、教育を特集するとのことでした。



この特集の趣旨が次のように書かれています。

「だれもが持論を語ることができ、正解は一つとは限らない。それが教育だと思う。競争社会を生き抜く強さか、異質な他者を認めるしなやかさか、教育をめぐる議論はかつてないほど活発化している。社会が急激に変化し、学校は子どもに対して、今はまだない仕事、発明されていない技術、起きるかわからない問題に備えさせる必要がある。見えない未来へ、誰もがためらわずに一步を踏み出してほしい。そのためにはどうしたらいいか、考えたい。」

この企画を受け、朝日新聞の奈良版では「奈良に学ぶ」というタイトルで連載記事が企画され、私も世界遺産学習について取材を受けました。私は、奈良市で行う「世界遺産学習」を推進している理由を話しました。世界遺産学習では、世界遺産をはじめとする地域の文化財や伝統文化、自然環境などが、多くの人々の手によって守り受け継がれてきた営みを深く知り、地域に対する誇りや地域を大切に思う心情を育み、奈良で学んだことを誇らしげに語る子どもの育成をめざしています。生まれ育った街を誇りに思う子どもを育てていくことは、子どもたちのアイデンティティを育てていくことであり、このことは、どの地域においても大切にしていかなければならないことだと思うからです。

昨年末に開催された第 4 回世界遺産学習全国サミットでは、全国から 900 名余りの参加をいただきました。今回のサミットでは「人とつながる、地域とつながる」ということをテーマにしました。分科会では、子どもたちと地域の人と一緒に発表する場面や、子どもたちの歓声が聞こえてくるような場面がありました。また、学区のブランド製品の展示や販売などもあり、活気に満ち溢れたサミットとなりました。



■地域と共に考える

学校と地域の関係について、国が示した第2期の教育振興基本計画には、これからの我が国の教育の方向性を示す4本柱が示されています。そのひとつに「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」があります。学校と地域の密接な関係作りを重要な柱の一つとしています。

奈良市の教育ビジョンの中にも、「信頼される学校園づくり」や「地域全体で子どもを守り育てる体制づくり」というものがあります。これらを推進するために「地域で決める学校予算事業」や「放課後子ども教室」などを推進してまいりました。

奈良市において、学校と地域が共に活動している事例をいくつか紹介します。

大宮小学校では、餅つき大会が行われました。他の地域でも同様の活動が行われ、中学生の参加が増えてきていると聞いていますが、ここでは、運営の手伝いに中学生が参加し、地域の方と共に活動をしています。また、独居老人に配る餅を作る作業を、民生委員の方がこの場で行うことで、地域の大人の活動について考えながら、中学生が大人と同じ活動を行っています。まさに地域連携が展開されている場面でした。

富雄第三小中学校では、地域の研修会に管理職や教員が参加をしている場面がありました。「子どもたちの今を考える」をテーマとして、大人は子どもたちの為に何ができるのかについて研修をされたそうです。この研修は、会場を学校として地域の方が主催するという形でした。こういったケースのほかにも、地域と学校が共に研修を行ったり、教員の研修に地域の方が参加したりするなど、様々な取組が広がってきています。

平城東中学校では「理科おもしろ実験教室」が開催され、理系分野で活動されている地域の方が、平日の授業時間に様々な具体物を持ち込みながら、子どもたちに対して興味づけの活動をしてくださっています。具体物の準備など、担任一人ではできないことを、地域の方々力を借りて実践している事例であります。

これらの事例は、子どもたちが地域の方々と出会うだけでなく、先生方も地域の方々とお会いする良い例となっているのではないのでしょうか。

■終わりに

最近、地域の力が校門の外から校舎の中に、さらには教育課程の中にも入ってきていると感じます。当初は草刈りや除草作業からスタートした活動が、今では、授業の中においてもご活躍をいただいています。

正解が一つとは限らない、予測困難な、地球規模で情報が飛び交う時代を、子どもたちがたくましく生きる力をつけていくためにも、私たちはどのような営みをしていかなければならないのかを考えていかなければなりません。現在、ためらわずに一步を踏み出すことが求められています。何もしないことこそが最大のリスクです。

現在、地域の中で多様な考え方をもっている人と関わる力や自ら課題を見つけて解決していく能力、チームワーク力などが求められていると思います。子どもたちには、地域の中での活動や体験をとおして、自分の世界を広げていき、たくましく生きる力を育ててほしいと思います。皆様には、ぜひとも、地域の方々と「どのような子どもを育てるのか」という議論をしていただきたいと思います。